

いしかわ 県薬レポート

2013、1 No.68

編集発行

金沢市広岡町イ25-10
(石川県薬事センター内)

社団法人 石川県薬剤師会

会長 能村 明文

目 次

- 年頭所感
石川県薬剤師会
会長 能村 明文…… 2
- 新年挨拶
日本薬剤師会
会長 児玉 孝…… 3
- 年頭に当たって
参議院議員
藤井もとゆき…… 5
- 第52回北陸信越薬剤師大会
第45回北陸信越薬剤師学術大会
地野 幹子…… 6
- 森先生
北陸信越薬剤師会賞受賞される… 8
- シニアライフ フェアに参加して
若村 徳子…… 9
- 地域包括ケアに向けた多職種連携に
積極的に参加しましょう
橋本 昌子……10
- 無菌調剤実務研修に参加して
北山 朱美……11
- 金沢市薬剤師会企画「若手集まれ！
10年後の薬剤師を考える会 in 金沢」
綿谷 敏彦……12
- 私のポートフォリオ
佐藤 智美……14
- Old Folks
中森 慶滋……16



三浦 智子 画



年 頭 所 感

石川県薬剤師会

会 長 能 村 明 文

新年明けましておめでとうございます。

会員各位におかれては、ご家族ご一同様お揃いで健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は本会活動にご協力賜り厚く御礼を申し上げます。

本年は、薬学のシンボルとされるアスクレピオスの杖に巻き付いた蛇（クスシヘビ）、巳年であります。

昨年4月には6年制薬学教育を受けた約8,500名の新薬剤師が誕生いたしました。そして、公益社団法人日本薬剤師会は創立120周年を迎える年であります。

本年は、念願の公益社団法人化を実施し新たな一步を踏み出す記念の年になります。

オール薬剤師による開かれた組織を目指し、薬剤師生涯学習をはじめとする諸々の事業を遂行し、組織活動を充実させ、医療の担い手としての名に恥じない魅力ある薬剤師会を形成し、医薬分業の更なる発展と定着を進めたいと願っています。

本年は4月より改正された石川県医療計画が実施されます。同時に県民の健康増進を図る「いしかわ健康フロンティア戦略

2013」も実施されます。

これらの計画は本県が県民に対し更なる良質な医療を提供し、健康寿命の延伸を目的として実施されるものであります。

薬剤師に対しては、増加する認知症及びうつ病などの精神疾患への対応、特に向精神薬過量服薬によるリスクを防止するゲートキーパーとしての役割が求められています。

そして超高齢化社会を迎え、本県の在宅・介護医療体制を担う役割も求められています。本会はこれまでの在宅・介護医療推進事業を地域拠点薬局（紫錦台薬局、小松会営薬局）に設置する「無菌調剤室」を活用する実務研修等を行い更なる積極的な取組みを行います。

また東日本大震災であらためてその重要性が認識された災害時医療体制の確立に対しては、本会は新たに策定する薬剤師災害活動マニュアルに沿って積極的に参画致します。

これらは医療体制の一翼を担う者として当然の責任であり義務と言えます。

今年度は新事業として『(仮) しっかり

服薬推進事業』を計画・実施いたします。

主な内容は患者の服薬が相互作用や重複服用等のリスクを回避され、適切な薬物治療が行われる事を目的として行います。又これまで懸案でありました、患者の残薬問題の解決も期待されます。

最後に本年11月3～4日に第53回北陸信

越薬剤師大会並びに第46回北陸信越薬剤師学術大会が金沢市で開催されます。担当県薬として多くの参加者に満足していただける大会になるよう準備に万全を期したいと決意しています。

この一年会員各位のご協力を心からお願いして年頭のご挨拶といたします。



新 年 挨 拶

日本薬剤師会

会 長 児 玉 孝

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、平素より公益社団法人日本薬剤師会の諸事業にご理解とご協力を賜っておりますことに、衷心より感謝申し上げます。昨年4月には、6年制薬学教育を受けた初めての薬剤師が巣立ち、実務実習にあたりまして大変お世話になっておりますが、薬剤師職能の将来を担う彼らに大いに期待しますとともに、引き続き現場でのご指導をよろしくお願い申し上げます。

さて、本年、日本薬剤師会の立場から、都道府県薬剤師会会員の皆様方をお願い申し上げます。以下のもので挙げられます。

1. 日本薬剤師会創立120周年記念事業へのご理解・ご協力

ご承知の通り、本年6月をもって日本薬剤師会は、明治26（1893）年創立以来120周年を迎えます。これを機に、記念式典、会館建設他、記念事業を実施する予定です。各都道府県薬剤師会のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2. 薬剤師の将来ビジョン

薬剤師を取り巻く環境の変化や将来予測を踏まえ、平成20年度から薬剤師の将来ビジョンの策定に取り組み、昨年6月暫定版を公表しました。本年は正式版を提示する予定ですが、120周年、6年制薬剤師誕生、特にオール薬剤師の会員にとって、将来像のご参考になればと考えています。

3. 医療計画実施への対応

本年4月から、今後5年間にわたる都道府県による新たな医療計画がスタートします。今回から、4疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病）に精神疾患が追加され、また5事業（救急・災害・へき地・周産期・小児）とは別に、在宅医療の医療連携体制の構築が加わりました。今回新たに加わった精神疾患については薬物治療が重要とされており、また、在宅医療に関しても、多職種が連携したチーム医療への取り組みに対して、病院薬剤師とともに薬局・薬剤師が積極的に関わることが求められます。

4. 医療計画推進の拠点としての薬局の活用

健康増進法に基づく「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」の平成25年度からの第2次活動において、身近で気軽に、健康について専門的な支援・相談が受けられる健康づくり拠点数を、10年間で15,000箇所整備する目標が示されました。薬剤師が常駐する医療提供施設として、既に全国ほぼ中学校区毎に約54,000軒存在し、地域に密着した医療資源である薬局が、その拠点として期待されている今こそ、私たちの出番であると思っております。そのためには、セルフメディケーションの推進と、薬剤師による積極的な関与も不可欠です。また、薬局・薬剤師が処方せん応需のみならず、このような認識を持ち、行動を起こすことによって、結果として医薬分業における薬局・薬剤師に対する国民からの信頼が得られるものと考えます。

5. 地域薬剤師会の活性化と薬業連携

薬剤師が在宅医療を含む地域医療に参画するためには、その支援組織としての地域薬剤師会の組織強化が不可欠です。特に本年は、公益法人制度改革に伴ない、多くの都道府県薬剤師会において新法人への移行が予定されています。この機会に、オール薬剤師の会としての組織強化、そしてチーム医療の観点から、都道府県薬剤師会レベル、及び地域支部レベルの三師会・四師会との連携強化、さらに、在宅医療推進のための病院薬剤師との薬業連携の強化等をお願いします。

6. 薬剤師の資質向上のための生涯学習制度の充実

日々高度化する医療の水準に対応していくためには、薬剤師個人の資質に応じた学習に取り組むことが重要です。本会では、昨年4月から生涯学習支援システム（J P A L S）をスタートさせましたが、幅広い年代からの参加登録が順調に推移しており、薬剤師としての資質の維持・向上に向けた、自己学習・研鑽への積極的な取り組みに大いに期待しております。

本年は巳年ですが、「へび」は生命を付与するものとして、医学・薬学のシンボルとされています。医療に関わる者として、本年が実り多い年になることを願っております。

末筆ではありますが、皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念申し上げますとともに、今後とも本会事業にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げ、新年の挨拶といたします。



年頭に当たって

参議院議員

薬学博士 藤井もとゆき

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様方には、お健やかに輝かしい巳年新年をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、長年待ち望んでいた長期実務実習を含む6年教育を受けた薬剤師が社会に巣立つという記念すべき年となりました。薬局及び病院において、患者さんの様子や医師、看護師など他の医療従事者が働いている姿を見ながらの実務実習で身につけた知識と技術、加えて医療倫理に支えられ、医療の現場で自信を持って業務に立ち向かっている薬剤師の姿が目に見えようです。

医療の提供体制は在宅医療、チーム医療を推進する方向に進んでいます。平成24年度の厚生労働省予算でも、在宅医療提供拠点整備事業（無菌調剤室をもつ拠点薬局の共同利用体制の整備事業）、在宅での疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進事業、在宅チーム医療を担う人材の育成事業、在宅医療連携体制の推進事業等が展開されています。また、平成25年度の予算概算要求にも主な事業が継続して計上されており、更に新規要求として、薬局を活用した薬物療法提供体制の強化事業が計上され

ています。在宅医療、チーム医療に薬剤師が積極的に参加することが強く求められており、その求めに的確に応えることが大切だと思えます。

また、スイッチOTCを大切に育て、適正なセルフメディケーションを支援することも地域薬局の重要な役目であると思えます。

更に、平成24年度の診療報酬改定は、病院薬剤師にとって画期的なものであったと思います。入院基本料に対する「病棟薬剤業務実施加算 100点（週1回）」が新設され、すべての病棟に薬剤師の配置が求められることとなりました。偶然にも6年制薬剤師の誕生と時期が重なったわけで、病院薬剤師への期待が益々高まることになると確信しています。

さて国会においては、昨年11月16日、衆議院が解散となり、この挨拶文が皆さんのお目にとまる頃には新たな政権となっているものと思います。現在の政策課題は、進行する少子・高齢化への対応、長期化する経済停滞への対応、東日本大震災・原発事故に伴う被害からの復旧・復興、普天間問題を巡る日米関係の改善、尖閣諸島・竹島・北方4島の領土問題への対応、TPP

への参加問題等、文字通り山積しており、新たな政権はこれらの政策課題に的確に対応していかなければなりません。

昨年秋の臨時国会において、1年ぶりに厚生労働委員会に復帰し、再び少子・高齢化のもとでの医療問題を中心とした活動を強めようと考えています。社会保障と税の一体改革は民主党政権に自民党と公明党が協力して関連法案を成立させましたので、どのような政権になろうとも、実施に向け

て進んでいくものと思われまます。

最後に、平成25年が皆様にとって、素晴らしい年になりますことを祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。本年も宜しくお願ひいたします。

藤井基之ホームページ

<http://mfujii.gr.jp/>

第52回北陸信越薬剤師大会 第45回北陸信越薬剤師学術大会

平成24年11月3日(土)、4日(日)の両日、ANAクラウンプラザホテル新潟において第52回北陸信越薬剤師大会、第45回北陸信越薬剤師学術大会が「人が求め時代が求める薬剤師」—共に支え合おう朱鷺色の心で—のテーマのもとで開催されました。

1日目の薬剤師大会は次のプログラムに従い行われました。北陸信越薬剤師会賞は石川県からは森正昭先生が受賞されました。

第52回北陸信越薬剤師大会 プログラム

- | | | |
|-------------|--------------|-------|
| 1. 開会のことば | 新潟県薬剤師会副会長 | 渡邊 彦 |
| 2. 大会会長あいさつ | 新潟県薬剤師会会長 | 長澤 敬一 |
| 3. 来賓祝辞 | 新潟県知事 | 泉田 裕彦 |
| | 新潟市長 | 篠田 昭 |
| | 新潟県医師会会長 | 渡部 透 |
| | 新潟県歯科医師会会長 | 五十嵐 治 |
| | 新潟県薬剤師議員連盟会長 | 星野伊佐夫 |
| | 日本薬剤師会会長 | 児玉 孝 |
| 4. 来賓紹介 | | |
| 5. 祝電披露 | 新潟県薬剤師会常務理事 | 竹石 秀明 |

6. 大会宣言採択 新潟県薬剤師会常務理事 佐藤 宏之
7. 北陸信越薬剤師会賞表彰式 受賞者
 池口 聖一 (長野県)
 上野 憲夫 (新潟県)
 西尾 公秀 (富山県)
 森 正昭 (石川県)
 渡辺 悦子 (富山県)
8. 次回開催県会長あいさつ 石川県薬剤師会会長 能村 明文
9. 閉会のことば 新潟県薬剤師会副会長 仲村スイ子
- 記念講演 演題 山本五十六が現代に伝えたかったこと 講師 稲川 明雄
- シンポジウム テーマ 三師会の連携による地域医療の推進
- ◆基調講演 新潟県医師会 吉沢 浩志
- ◆シンポジウム 新潟市医師会在宅医療推進事業 新潟県医師会 岡田 潔
 「超高齢者社会で求められる歯科医療」－在宅歯科医療における連携の必要性－
- 新潟県歯科医師会 佐藤 徹
 薬剤師、踏み出してみよう地域医療・在宅医療 新潟県薬剤師会 野口 貴之

このあと開かれた懇親会では、日本海太鼓の素晴らしい演奏で幕が開け、美味しい日本酒のもてなしにあっという間の2時間が過ぎました。石川県は能村会長の音頭で来年の開催地アピールを致しました。

第45回北陸信越薬剤師学術大会

新潟、福井、富山、長野、石川から第1、第2、第3会場にて口頭発表42題、ポスター発表37題の発表がありました。各会場で充実した発表・討議がなされ充実した時間を過ごすことができ、発表された先生方に感謝いたします。

口頭発表(石川県関係者)

第1会場

- 学校薬剤師、環境衛生 (村田 世里子)
 公衆衛生 (金戸 恵子)
 薬学生教育・実務実習 (橋本 昌子)
 薬学生教育・実務実習 (二木 結果里)

第2会場

- 自殺予防、地域医療連携・チーム医療、服薬指導、薬物治療、お薬手帳 (北山 朱美)
 医薬品情報 (金田 孝子)

コミュニケーション、服薬指導 (山崎 敏誉)

第3会場

薬局製剤 (河崎 文洋)

服薬指導、薬物治療、残薬 (入江 祥子)

ポスター会場

薬局の業務改善にむけた取り組みについて～第3報～ (山口 弘美)

グループホームの薬剤管理に関わって見えてきたこと (安達 千哉子)

自宅における輸液ルートの設定 —最期の願い「娘の結納に出たい」— (丸一 泰雅)

石川県薬剤師会における在宅介護委員会の取り組み —「在宅支援マニュアル」「在宅・介護マップ」の作成について— (森田 映司)

組織で取り組む症例報告会の成果 (勿尾 伸哉)

イナビル吸入時の年齢と吸入成功率の成績 (岡田 政彦)

(KKR北陸病院 地野 幹子 記)

森正昭先生 北陸信越薬剤師会賞受賞される

去る平成24年11月3日に開催されました第52回北陸信越薬剤師大会におきまして、石川県薬剤師会から森正昭先生が北陸信越薬剤師会賞を受賞されました。森先生におかれましては県薬レポートの編集長を長年

勤められるとともに石川県薬剤師会の役員という立場でご指導いただいております。森先生の受賞は我々編集委員にとって、とても嬉しく思います。

(編集委員)



大会会場にて



受賞された森先生 (右)

シニアライフフェアに参加して

北陸薬局 若村 徳子

平成24年10月20日、21日の両日、石川県産業展示館にて「シニアライフ フェア」が開催されました。石川県薬剤師会は「脳年齢測定」と「お薬相談」を行いました。薬剤師会のコーナーは会場の入口から一目で判る場所にあり、開場と同時に脳年齢測定には途切れることなく人の列ができました。脳年齢に関心のある方が多く、他の業種の方から「すごい列だね。」と言われるくらいでした。ゲーム感覚で、バラバラに並んでいる数字を1～25まで順々に押す、タッチパネル形式のチェックテストで、脳の元気度、活用度を測定するものです。

82才のご婦人が「私にも出来るかしら？」と言いながら、真剣な眼差しで画面に向かって始めました。指で数字をタッチしているのですが、力が弱いのか、なかなか反応しません。思わずその方の手を取り一緒に声をかけ合いながら、最後まで終わることが出来ました。「楽しかったわ！ありがとう。」といって帰って行かれました。心がほっくりと温かくなりました。年齢より若い結果が出ると、皆さん嬉しそうに「良かった、また頑張れる。」と喜んでいかれる姿を見、こちらも自然と笑みがこぼれました。

待ち時間に、お薬手帳を配りながら、手帳の活用法について、お話をしながら、いろいろと声掛けをいたしました。

参加されている方達は、メディアなどからの情報も多く持たれ、社会参加にも積極的な方が多かったです。80才の方で脳年齢が58才と出た方は、多少薬を服用していらっしやいましたが、顔色も良く元気な方でした。「くよくよしないで、明るく生きた方がいいでしょう！毎日いろいろな事をし、いろいろな方とおしゃべりを楽しんでいます。」と話されていました。「心身相関」という言葉があるように“楽しいおしゃべり”と“笑い”は身体に良い影響を与え、認知症の予防と自立した生活の維持に役立っているのではと思います。

私にとっても、いろいろな方からお話を聞くことで、考えさせられる事、教えられる事が多くありました。来年、禁煙フォーラムを主催する医師会から、このコーナーを設けて人集めに協力して頂けないかと要請されました。

各人に同じ説明をしたりして色々忙しかったのですが、楽しい一日でした。



地域包括ケアに向けた多職種連携に積極的に参加しましょう

石川県薬剤師会 橋 本 昌 子

昨年度から、医師会が中心となり金沢を3つの地区に分けて医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護福祉士、ケアマネなど多職種が参加する在宅推進会議が開かれています。私が所属する金沢南地区在宅推進会議では、昨年度在宅医療を推進するために何をすべきかをさぐるため、20名ほどのワーキンググループで思いを出し切るワークショップを4回にわたり開催しました。

1回目のワークショップは、「なぜこの地区で在宅医療がすすまないのか」というテーマで行いました。結果から見てきたことは、①介護保険制度や施設の形態がわかりにくく利用しにくいこと、また各職種が何をしているのかわからないなどの知識不足に関連した問題点。②医師との連携がむずかしい、他職種の顔がみえないなどのコミュニケーション不足に関連した問題点、この2つが大きな原因になっているということです。そこで2回目以降に「どうしたら解決できるか」について討議しました。ここでは、介護保険のかかり方をわかりやすくし専門職どうしが接点をつくり連携する。また地域のコミュニケーションやつながりをつくる必要があるという結論に達しました。

今年度の活動は、顔の見える多職種ネットワークづくりを中心に行っています。

「いしかわ921在宅ネットワーク」のホームページによる情報発信や情報の共有。グループ討議をまじえた研修会。ここで薬剤師の研修もさせていただきました。歯科やリハビリの仕事についても研修しました。

このように多職種で問題をさぐり、解決策を話し合い実行するという3つのステップを行ったことで、素晴らしいチームワークが生まれています。本音を言える関係をつくり、課題の共有をすることが大切だと実感しました。

薬剤師の参加がまだまだ少ないようですが、地域包括ケアシステムには薬剤師の参加が不可欠です。ぜひ自分の地域での多職種連携会議に、積極的に参加しましょう。



「無菌調剤実務研修に参加して」

メディ菊川薬局 北山 朱美

在宅医療が進む中で、患者の栄養管理や終末期の緩和ケアなどを目的に、在宅患者への無菌製剤（注射薬）の調剤を薬局が行う機会がこれから増加するものと考えられます。その環境整備の一環として平成24年8月22日には無菌調剤室の共同利用に関する省令改正（平成24年8月24日付日薬業発第150号）が行われ、薬局が無菌調剤を行う環境の整備が進められてきました。

無菌調剤の経験の無い私は、この度、石川県薬剤師会による「無菌調剤実務研修」に参加する機会を得たのでここに報告いたします。平成24年11月25日（日）北陸大学薬学部の実験科学棟無菌製剤室において「注射剤の混合の基本的操作ができる」を到達目標として体験型の実務研修が行われた。最初に北陸大学の毎田千恵子先生より無菌調剤の基本操作についての講義を受けた後、無菌製剤室に移動。入念な手洗いの後、無塵衣に着替えて無菌室に入室。パスボックスを通しての物品の搬入、クリーンベンチ内での混合調製操作の実習（基本液：ハイカリック液1号＋アミノ酸輸液：プロテアミン12Xの混合）を行った。その

後試験室に移動しアンプルやバイアルの扱い、注射器の扱いについてオーツカMV注の混合、10%NaClの混合などを通して繰り返し基本操作の習得に努め、ピタメジン静注用では、バイアル内が陽圧の状態でのバイアル内の薬物の溶解および薬液の採取操作について学んだ。

続いて、高カロリー輸液の成分、投与方法などの講義を受けた。約4時間の実務実習は大変有意義であり、これから注射剤の配合変化などについても自己学習していこうと思いました。私のような無菌調剤の経験の無い方は、引き続き開催されるであろう「無菌調剤実務研修」に積極的に参加されることをお勧めします。



金沢市薬剤師会企画 「若手集まれ! 10年後の薬剤師を考える会 in 金沢」

金沢市薬剤師会 綿谷敏彦

金沢市薬剤師会が企画した「若手集まれ! 10年後の薬剤師を考える会 in 金沢」が、平成25年1月5日(土)に開かれました。20代~40代の薬剤師を中心に約30名が集いました。

冒頭、石川県薬剤師会能村明文会長よりあいさつがあり、その中で「石川県内には約2,500人の薬剤師がいるが、石川県薬剤師会への登録会員は約700名。会員でない薬剤師も共にこれからはオール薬剤師として進んでいく必要がある。」と話され、薬剤師同士の積極的な連携・協力の必要性を呼びかけられました。

続いて金沢市薬剤師会山崎敏誉理事による「10年後の薬剤師を考える」と題しての基調講演が行なわれました。薬剤師のステータス向上と職能向上が必要であり、そのためにはどうあるべきかということの問題提起がありました。

それを受けて、参加者は4つの班に分かれてスモールグループディスカッションを行ないました。初対面同士の方々も多く、まずは自己紹介があったのですが、これが

意外と難関でした。各人に自己紹介シートが配られ、そこに自己PRを20個記載してそれをグループ内で紹介するというものだったのですが、その20個がなかなか書ききれず…、最終的には好きな食べ物や血液型を記したりしてなんとか書き上げました。そのおかげで意外な一面まで垣間見ることができました。今回、開局薬局に勤める薬剤師のみならず、メーカーや卸に勤めている薬剤師や公務員も参加されていて、同じ薬剤師とはいえ異業種の集まりのような感覚もありました。

さて、肝心のディスカッション内容ですが、「夢を語り合いましょう!」という大きなテーマのもと、各班で積極的な意見交換が行なわれました。以下、発表された意見を少し紹介いたします。

◎ 調剤を簡素化することによって、薬剤師に時間的な余裕が生まれ、患者さんと接する時間が増えれば、患者さんの話をゆっくり聞くこともできます。また、現在のようなカウンター越しではなく、喫茶店のようなリラックスできる環境であ

れば患者さんも心を開いて話してくれるでしょうから、これまでなら気づかなかった患者さんの情報を入手することができ、治療に役立てることができるかもしれないと思いました。

- ◎ より患者さんに近く、より患者さんとのコミュニケーションがとれる薬剤師となることによって、アメリカのように最も信頼される職業が薬剤師となる日が来たら素晴らしいなと思いました。
- ◎ 患者さんと接することになると薬剤師個々の能力が問われてきますし、薬についての知識はもちろん、コミュニケーション能力や人間的魅力によって他の薬剤師との差別化をはかることによって年収1,000万円を超えるカリスマ薬剤師の登場というもあり得るかもしれないと思いました。
- ◎ 処方医に対して、まず医師⇔薬剤師の連携の必要性を痛感しており、自分の顔をみせるようにすることが先決と感じている。10年後には薬剤師の顔が見えるような医療コミュニケーションが実施されているであろうと思う。
- ◎ 在宅医療に対して、地域連携の会などにもっと積極的な参加が求められるであろうし、必要となっていると思う。

◎ 卒後教育に対して、4年卒と6年卒の薬剤師間に能力差がでないようにするには、疾患に強くなるための卒後教育の必要性があると感じている。

◎ 10年後はもっとグローバル化が進んでいる。金沢も新幹線が開通して、もっと外の人が沢山来るが、金沢の人は内々で完結して満足している傾向があり、なかなか外に目が向きにくい。このままで外からの人々に対応していけるのか？対応していくために世界に通用する薬剤師になろう。そして金沢から日本の素晴らしい取り組み（在宅医療など）を世界へ発信していこう。

◎ 私たち薬剤師が売りたいのは「薬」ではなく「健康」なのです。

次回以降、現状の問題点や解決策についてももっと深めていく予定になっています。まずは薬剤師同士が連携していけるよう、一人でも多くの方々にご参加いただき、一緒に10年後の薬剤師を考え、語り合いましょう！ あなたの参加をお待ちしております。

My Portfolio

私のポートフォリオ

メディ菊川薬局 佐藤 智美

研修形式	研修会	研修会コード	17-2012-0010-G08
研修会課題名	平成24年度地域一体型 (在宅・NST)委員会 勉強会	研修会主催者	メディコン(株)・テ ルモ(株)・石川県病 院薬剤師会
受講年月日	2012/09/02	研修時間	3時間
場 所	石川県立中央病院薬剤部会議室		
研修内容	瘻孔の管理、胃瘻の管理を体験、経腸栄養剤の粘度を体験等		
この研修のまとめ (例：学んだ言葉、内容を理解できたものと、よく理解できなかったものに整理する等)	<p>1：栄養管理法（栄養評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経口栄養法、経腸栄養法（経鼻胃（腸）チューブ、胃（腸）瘻） ・経静脈栄養（末梢静脈栄養法、中心静脈栄養法） <p>2：PEG造設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Pull Push法（胃内腔から腹壁外の経路で造設） ・Introducer法（腹壁外から胃内腔への経路で造設） <p>[胃内固定版]</p> <p>◆バンパー型</p> <p>長所：カテーテルが抜けにくい 約6ヶ月に1回交換（保険請求：4ヶ月以上）</p> <p>短所：交換時に痛みや圧迫感あり</p> <p>◆バルーン型</p> <p>長所：バルーン内の蒸留水（滅菌蒸留水）を抜いて挿入抜去するので交換が容易</p> <p>短所：バルーンが破裂することあり、短時間で交換になることあり約1ヶ月に1回を目安に交換（保険請求：24時間以上）</p> <p>[体外固定版]</p> <p>◆ボタン型</p> <p>長所：自己抜去が少ない カテーテル汚染が少ない 逆流防止弁がついている</p> <p>短所：指先でボタンを開閉しにくい シャフト長が固定、患者の栄養状態改善時潰瘍発症</p> <p>◆チューブ型</p> <p>長所：投与時栄養チューブとの接続が容易</p> <p>短所：チューブ内が汚染されやすい。自己抜去が多い</p>		

	<p>3：胃瘻カテーテルに実際に触れて体験</p> <p>4：経腸栄養剤の粘度を体験</p> <p>粘度測定用シート、抜き型を利用し同心円法でサンプルの粘度測定：大まかな推定値であり、食品の粘度測定は様々な要素、条件下により異なる。栄養剤が消化管の中でどれくらい「まとまり」を作る能力があり、誤嚥性肺炎や下痢などを防げるかを把握する</p> <p>5：胃瘻管理（日常管理）、合併症</p> <p>[カテーテル管理]</p> <p>微温湯でフラッシュ、ブラシでの洗浄（胃瘻のみ）</p> <p>酸による静菌（酢を利用）</p> <p>カテーテルの固定方法（接触部位をずらす、垂直に立つよう固定）等</p> <p>[漏れ防止]</p> <p>背もたれのキャッジアップ30°、ガス抜き、投与速度調整、投与量減、栄養剤の粘度調整（半固形状のものに変更）</p> <p>こより法（少量の漏れ）</p> <p>[スキンケア]</p> <p>弱酸性の石鹸で軽く拭く、シャワーは術後1週間、入浴は術後2～3週間、液体の皮膚皮膜剤、撥水性の皮膚保護クリーム、皮膚保護オイルなどを塗布（湿疹や炎症のない時のみ）</p> <p>[合併症]</p> <p>造設時：出血、他臓器誤穿孔、腹膜炎、肺炎、瘻孔感染、早期事故（自己）抜去、</p> <p>皮膚：不良肉芽（悪化時は硝酸銀による処置、外科的治療）、スキントラブル（栄養剤の漏れによる皮膚炎、カンジタ、瘻孔感染）、バンパー埋没症候群等</p> <p>6：液体栄養剤症候群と半固形栄養材について</p> <p>◆1次性液体栄養剤症候群：流動性が高いことによる胃内での貯留、排出運動や消化吸収が阻害されることにより生じる症状</p> <p>瘻孔周囲への漏れ</p> <p>胃食道逆流に伴う誤嚥性肺炎</p> <p>下痢など消化管症状</p> <p>耐糖能異常</p> <p>◆続発性液体栄養剤症候群：液体栄養剤の合併症対策として緩徐に30°の仰臥位で注入することで生じる精神的、身体苦痛などの症状</p> <p>廃用性萎縮、褥瘡</p> <p>ADL、QOLの低下</p> <p>精神的苦痛など</p> <p>◆電解質異常や脱水の予防</p> <p>水分とエネルギー量の比率が30%以下で脱水、高Na血症</p>
--	--

	<p>◆胃瘻からの半固形栄養材短時間摂取法（合併症発症時） 胃内で適切な粘度（20000mPa・秒）のある食物を適切な量（400～600 ml）で短時間（5～15分）で摂取する 半固形化栄養材を使用する目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生理的な消化管運動 ・消化管ホルモンの分泌、消化吸収
学習内容で実践活用ができそうな例、学習が実践活用できた内容	在宅におけるPEG造設患者の問題点解決と管理について 排便コントロールと栄養剤の適正粘度の確認等
学習目標達成できなかった項目、今後の学習が必要な項目	患者の病態と栄養管理について

Old Folks

石川県薬剤師会 中 森 慶 滋

先週の水曜日の出張の際、生涯学習委員会の会議まで時間があつたので渋谷のタワーレコードに行ってみることにした。ところが着いてはみたものの現在改装中とのこと、仕方がないので新宿のタワーレコードを携帯で探し出して行くことにした。商業ビルの上層階に数フロアー占有してある新宿店、まずJAZZのフロアーに行く。

最近JAZZは元気がないのだろうか、売り場面積はあつけないほど小さい。考えてみるとJAZZ界にはホットな話題がないかもしれない。僕がかろうじて車の中で聞いているのは1950年代のマイルスがミュートトランペットでバラードを吹く以前のミュージシャンたちのものが多い。パワフルで、軽

やかで、チャーリーパーカーの延長線にあるようなテンポの速い独特のジャズ。僕はこれをマイルス前派と勝手に呼んでいる。

現代のJAZZには世界中でひっぱりだこの上原ひろみやブラッド・メルドーなどにもいるが、みな迷宮に迷い込んでしまったかのような、クリエイティビティーの呪縛に翻弄されている。だからと言って誰かをマイルス前派として祀りあげ売り出すには、コンセプトが弱く現代的ではないだろう。

次にその上の階にあるクラシックコーナーに行く。最近発売されたからなのだろう、僕もアマゾンでそれらを見つけたので

早速注文してあるグレン・ゲールドのアルバムが売り場の一角を占めていた。みな2～5枚の複数枚で構成されているものの価格は1,000円前後ととてもお買い得。このうちの10種を選び注文した。今朝あたり自宅に配送されているだろうと思いながら眺めていた。

いろいろなアーティストのボックスセットがお買い得だ。作曲家、演奏年代、演奏家の違いを聞き比べるだけで新しい音楽の世界を発見できる。そのため狭い世界とってしまったJAZZよりは何倍も音楽的に楽しめる。

現代音楽コーナーに行く。スティーブ・ライヒやフィリップ・グラスなどのミニマル音楽、ジョン・ケージやテリー・ライリーなどが陳列してあるのを見て、学生時代彼らの抽象的な音楽をよく聞いたものだと思う。聞くというよりは感じる音楽。



「Solo piano II」 Chilly Gonzales

ピアノのソロコーナーで試聴できた。何枚か試聴しAnna Rose Carterを一枚とChilly Gonzalesを二枚買う。この手のピアノソロはエリック・サティーのような雰囲気を出しつつ大概是ピアニストの音楽性の希薄さで押しつぶされてしまうものだが、実に個性的で聞かせてくれる。ここ数日、家にいるときにゲールドのアルバムに埋もれながら時々聞いている。日曜日の朝など聞くといいだろう。ゆったりとした時間に季節が取り込まれ異次元空間を演出してくれる。

一日おいて金曜日からは「薬学教育者のためのアドバンストワークショップ」に日本薬剤師会から薬局薬剤師の立場として派遣されることになったため大阪に行く。大阪は全く分からないため駅についてもうろろするばかり。会場には歩いて行ける距離だったのにもかかわらずタクシーに乗り連れて行ってもらう。タクシーの運転手は



「Silver Lines」 Anna Rose Carter

会場が研修を行う施設と知っているようで次のように言った。「今から研修ですか、この3日間外にも出ないで大変ですなー」そうなのだ！貴重な休みが潰れてしまうどころか、収容所施設にでも入れられるかのような3日間缶詰となりそのため精神的苦痛を被り異常を来す可能性もあるのだ。グループの僕以外はすべて大学の先生。微妙な距離感を取り、実務実習を行っている現場の強みで歩み寄っていくことにしようと思う。

割り振られた僕のグループのほとんどが基礎系の先生であった。僕にとってとても苦手な人たちだ。しかし討論していくうちに個性的で楽しい先生たちであることがわかり、次第に面白く思えるようになってきた。「6年制の薬学で変わったこと」「6年制課程卒業時に必要とされる資質」「基本的能力をどのように評価するか」など3日間を通して7つのセッションを行い、その間TBLやワールドカフェなどを体験する。夜は懇親会でいろいろな先生と知り合い自分を解放し盛り上がった。今は行ってよかったと派遣された事を感謝している。

実は土曜日の24日は大学時代のクラブの創立記念OB会が行われることになっていて僕も参加する予定だった。これまで10年

毎に行われ今年は40周年記念会。ジャズのライブハウスを借り現役・OB共々演奏を行う。ところがJAZZから次第に遠ざかっていたのもあったし、またワークショップには昨年末に参加を一度要請されていたのにもかかわらず断っていたため今回はさすがに断れないなということで、結局選んだのはワークショップであった。

土曜日のワークショップのセッションの間、時々携帯が振動する。WEBに画像がどんどん送られてきているのだ。懇親会も終わり部屋に帰り、それらの写真を見ていたら動画もUPされていることに気が付いた。これは誰なのだろうか、OBになってすでに何年も経っているので知らなくても当たり前なのだが、知らない女性がマイクを持って立っていた。彼女は"My Funny Valentine"を歌いだした。ドラムやピアノも雰囲気をよくつかんでいてジャズクラブに紛れ込んだかのような。僕らの頃、ボーカルはいなかったなと思いながらワークショップの激論の疲れを癒しながら聞いていた。

一つだけ今回の40周年記念OB会の運営者に言おうか迷ったことがある。数年前JAZZ研の先輩のTさんが脳梗塞で亡くなっていた。そこで会が始まる前に黙とうを捧

げたらいかだらうかと。しかしJAZZ研は以前よりそういった社会的で体制的なことには背を向ける傾向が強かった。「そんなのいいよ」などとはさすがに言わないだろうがそんなクラブではないことは僕もよく知っていた。

大学の総会でJAZZ研が問題となったことがあった。どんなことが問題視されたのかは忘れてしまったが、当日その旨通告され質問されるとの連絡を受けていた。「なんだかめんどくさいね」ということだったので、部長以下誰も会場にはいかずに部室で演奏していた。それがJAZZ研であった。会場でJAZZ研の釈明を聞こうとした執行部は、JAZZ研から誰も出てこなかったのを怒り狂ったそう。それがJAZZ研らしさだ。だからTさんへの黙とうの話は僕だけの心の中に止めておくことにした。

翌日Facebookに運営を行っていたKさんの文章が書かれていた。多くの人たちが集まったこと。演奏会はとても盛況で今や部員は50名を超えていたそう。そしてピアノのKさんが宮崎からやってきて演奏したこと。そのとき時間は止まったかのように昔を思い出したこと。

この人たちは僕と活動を同じくした人たちで、おそらくその場にいたら僕も時間が止まったと感じることは十分想像できた。そして、亡くなったTさんも同じ場にいた

はずだ。

「何の曲を演奏すると聞かれたときにこの曲を演奏したいとWさんに言いました。するとみんなそれで行こうということになり当日演奏しました。」と書かれていた。何を演奏したのだろうと思いながら続きを読んだ。「その曲、オールド・フォ・・・」とここまで読んだとき涙が出てきて止まらなくなった。

僕がおとなしく部室にいたとき「おい中森、おとなしいじゃないかまるで「静かなる中森」みたいだな」とTさんが言った。これはケニー・ドーハムのアルバム「静かなるケニー」のことを言っているのだとすぐに分かった。そんなTさんが好きでよくアルトサックスで吹いていたのが「静かなるケニー」の中に収録されている「オールド・フォークス」であった。



「静かなるケニー」 Kenny Dorham

平成24年度県民啓発講座

県民のための健康講座

日時 平成25年1月27日(日)午後1時～4時

場所 ANAクラウンプラザホテル金沢 3階 鳳の間
(旧 金沢全日空ホテル) 金沢市昭和町16-3(電話076-224-6111)

第1部 「薬を安心してのむために」
●ビデオ上映
●シンポジウム
「知ってますか? クスリの正しい使い方」

第2部 特別講演
「ストップ・ザ・ぼけ ～笑顔の認知症講座～」

は せ が わ よ し 氏
土岐内科クリニック プレイングループ理事長 長谷川 嘉哉氏

プロフィール 1966年2月14日生まれ B型内午。1990年 名古屋市立大学医学部卒業 医学博士。2000年 認知症専門外来および在宅医療の実践のため、岐阜県土岐市で開業。祖父が認知症であった経験から患者さんご家族の立場にたった専門医療を提供している。半径100km圏内から、患者さんが受診されている。また、在宅医療にも取り組んでおり、開業以来、15000件以上の訪問診療、260人以上の在宅看取りをしている。著書に「患者と家族を支える認知症の本」「介護にいくらかかるのか～いざという時知っておきたい介護保険の知恵～」がある。また、代表を務めるプレイングループ 株式会社ザイタックは、岐阜県初代エクセレント企業に選ばれ、岐阜県知事からの表彰を受けている。

おさそい合わせ
おいてください!!

- 医療法人プレイングループ理事長
- 株式会社ザイタック 代表取締役
- NPO法人東海パワーリハビリテーション研究会 代表理事
- NPO法人グッドシニアライフ 代表理事
- NPO法人PAL研究会 会長
- 日本福祉大学中央福祉専門学校非常勤講師
- 医学博士
- 日本神経学会専門医
- 日本内科学会専門医
- 日本老年病学会専門医
- 介護支援専門員
- 認知症ケア専門士
- ファイナンシャルプランナー
【西田敏】塾生

入場無料
粗品進呈

主催/石川県薬剤師会 共催/金沢市薬剤師会 後援/北國新聞社

原稿を募集しています。

- ◇「県薬レポート」では、この小冊子をより一層愛されるものになりたいと願って、読者の皆様から広く原稿を募集しています。
- ◇テーマや内容、体裁は自由です。評論、随筆、意見、提言、店頭体験談、趣味の話、詩、短歌、俳句、川柳、或はマンガ、イラスト、カット、写真等々何んでも結構です。ただしあまり長いものは御遠慮の程を……。
- ◇用紙や宛先等は下記のとおりです。
用紙：400字詰原稿用紙又はハガキ
※切：特に設けていませんいつでもどうぞ
宛先：金沢市広岡町イ25-10
社団法人石川県薬剤師会内

その他：採否は編集係におまかせ下さい。なお、いただいた原稿はお返しできませんのでご了承下さい。

「県薬レポート」編集係
編集員：中森 慶滋、三浦 智子、西上 潤
橋本 昌子、山崎 敏誉、吉藤 茂行
石川県薬剤師会ホームページのアドレス
<http://www.ishikawakenyaku.com/>
会員専用パスワード
ID: ipa01 password: ipa01 (いずれも半角入力)
eメール・アドレス
isiyaku@plaza-woo.jp